

平成 29 年度 県・市町まちづくり意見交換会等 主な意見・課題等

凡例 神戸・阪神・東播磨：① 中播磨・北播磨・西播磨：② 但馬・丹波・淡路：③

1 安全・安心のまちづくり

テーマ	市町の意見・課題等
災害危険性の高い住宅地の解消	<ul style="list-style-type: none"> <li>○密集市街地などの商店街では、共同化等の防災上の取組と商業の活性化の両立が難しい (①)</li> <li>○規制誘導(防災街区整備地区計画等)手法を導入しても、狭小宅地が多く建替が困難 (①)</li> <li>○敷地統合の促進や住民の負担軽減が必要 (①)</li> <li>○密集市街地は、高齢化の進展とコミュニティの希薄化が進み、子育て世帯の住宅地にならない (①)</li> <li>○建築基準法上の道路に接道しておらず建替が困難 (①)</li> <li>○共同住宅を建築する際は、セットバックを指導している (①)</li> </ul>
公共交通の衰退、利便性の低下	<p>[路線バス関連]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○バスは、朝夕は学生、昼間は高齢者が、利用しており工夫が必要 (②)</li> <li>○周辺市町と共同で、積極的な利用促進の取組が必要 (②)</li> <li>○田舎ではほとんどの人が車を所有しバスの必要は低い、なお、一部の人には必要だが利用率があがらない (②)</li> </ul> <p>[コミュニティバス関連]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○コミュニティバスが維持困難となった場合の高齢者の生活利便の低下が課題 (①)</li> <li>○人件費を考慮するとコミュニティバスの自動運転に期待 (①)</li> <li>○コミュニティバスは基本的に赤字 (②)</li> <li>○町民バスとスクールバスとの混乗化を実施、乗り合いタクシーの運行を実施 (③)</li> <li>○コミュニティバス運行にあたり、陸運協議において運行経路や停留所に制限 (②)</li> <li>○コミュニティバスの利用が増えると、逆に電車の利用が減り、各駅停車も駅に止まらない時間がある (③)</li> </ul> <p>[デマンド型交通関連]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○コミュニティバスの利用率の低い時間帯は、デマンド型タクシーを運行 (②)</li> <li>○デマンド型交通について市町域を超えるものも必要 (②)</li> </ul> <p>[その他]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○鉄道駅から 1 km 離れたところへの移動として、町民タクシーを運営 (③)</li> <li>○白タクの規制緩和を検討 (③)</li> </ul>
子育てしやすいまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>○町内全小学校でトイレの大規模改修を実施、人口維持には特色が必要 (①)</li> </ul>
生活サービス施設空白地域の拡大、買物難民	<ul style="list-style-type: none"> <li>○買物難民等が大きな課題、試験的に卸売市場とタイアップして宅配サービスを実施 (①)</li> <li>○買物難民対策として移動販売が充実、安否確認も実施 (③)</li> <li>○農協が移動販売、コープが宅配サービスを実施 (③)</li> <li>○コミュニティが大きい自治会などでは、お食事会や見守りを実施 (③)</li> <li>○商店街が消滅するなか高齢者の食料品調達は課題 (②)</li> </ul>

## 2 環境と共生するまちづくり

テーマ	市町の意見・課題等
都市農地の減少、耕作放棄地の増加	<ul style="list-style-type: none"> <li>○市街化調整区域では、農業系の振興策がなく、農地の健全な保全が課題 (①)</li> <li>○都市と農村の総合計画を全体として考えていく必要がある (①)</li> <li>○農業をやりたい人はいるが、3反以上の農地を持つことが必要で、農家になれず課題 (②)</li> </ul>

## 3 魅力と活力あるまちづくり

テーマ	市町の意見・課題等
中心市街地の空洞化	<ul style="list-style-type: none"> <li>○旧市街地の住民にいかに住み続けていただくかが課題 (①)</li> <li>○3町合併のため中心市街地がわかれており、ネットワークの形成と都市機能を分担・集約が必要 (②)</li> <li>○機能の集約について、考え方として市民の理解は得られるが、具体の地域となると理解が得られない (②)</li> </ul>
オールタウン化	<ul style="list-style-type: none"> <li>○UR や公社などの高層住宅団地の建替は、空き地等を種地に建替していく必要がある (①)</li> <li>○住民主体で作成した地区計画について、少子高齢化を踏まえ変更したいが、住民の活動が見込めない (①)</li> <li>○ニュータウンは、今後、ファミリー世帯と単身世帯とのニーズのミスマッチが生じる (①)</li> <li>○ニュータウンでの用途混在も必要であるが、住民が住宅以外の用途を望んでいない (①)</li> </ul>
空き家・空き地の増加、都市のスポンジ化	<p>〔空き家関連〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○空き家の所有者に活用の意向がなく、需要と供給が一致していない (①)</li> <li>○密集市街地に空き地が発生すれば防災上安全な空間として活用するというマスタープランを策定した (①)</li> <li>○空き家を相続したが不要なので、無料で行政に引き取って欲しいという要望がある (②)</li> <li>○空き家について「財産を維持管理する」という認識が薄い。登記も変更されず、管理者が明確でない (②)</li> <li>○行政が空き家・空き地の情報を収集し、民間事業者に提供し、活用を促してはどうか (②)</li> <li>○空き家対策はこれから一番の課題 (②)</li> <li>○過去に略式の代執行を行った。1件代執行を行うと、行政が最終解体してくれると思われる (②)</li> </ul> <p>〔都市のスポンジ化関連〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○まだ都市のスポンジ化は意識していない (①)</li> <li>○人口密度は現状でも高い状況で20年後でもそこまで低くならないだろう (①)</li> <li>○ミクロでみるとスポンジ化は発生する。埋めるのか、敷地を拡大するのか検討が必要 (①)</li> <li>○交通利便が良いところは、若者も集まりその地域の人口は増えるが、全体としては減少している (③)</li> </ul> <p>〔その他〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○支所の職員数が減少し、住民サービスは、分散でなく1ヶ所に集中していく状況 (③)</li> <li>○鳥取豊岡宮津自動車の完成により住民の移動は加速すると考える (③)</li> </ul>
市街化調整区域の衰退	<ul style="list-style-type: none"> <li>○市街化調整区域の空き家の活用については、都市計画法上の取扱を確認する必要がある (①)</li> <li>○特定空き家となり固定資産税の特例の適用がなくなっても、解体費の方が高いため解体されない (②)</li> </ul>

#### 4 自立と連携のまちづくり

テーマ	市町の意見・課題等
まちづくりの担い手や財源の不足	<ul style="list-style-type: none"> <li>○丹波や篠山では自治会組織が活発に活動してもらっている (③)</li> <li>○民間の活動家は自由な発想でまちづくりに取り組んでいる (①)</li> <li>○まちづくりの専門家も高齢化している。行政として支援策の検討も必要(③)</li> <li>○民間ベースで元気にまちづくり活動をされている人もいる。そういう方を行政がみつけていく必要がある(①)</li> <li>○各小学校区にまちづくり協議会を設置、交付金を配分し、様々な取組をおこなってもらっている。(①)</li> <li>○まちづくりの課題解決に向け、行政と住民の役割分担をする必要がある。(①)</li> <li>○集落の活動に補助をだしている。更に行政の仕事を買ってもらいたいのが難しい(③)</li> </ul>
地域コミュニティの衰退	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域外から人を集めて祭りなどの行事を開催しようとしているところもある (③)</li> <li>○一地域でコミュニティ維持が難しく、複数にまとめるか、行政が一部担う必要もある。(③)</li> <li>○地域活動組織を設け、5ヵ年計画で支援し、いろいろな取組を促している。行政の役割を移譲したい (②)</li> <li>○自主防災組織を立ち上げるための助成金をだしている (②)</li> <li>○ガソリンスタンドやマーケットを営業していた農協の撤退を機に、10集落が集まり、地域での運営を開始している (②)</li> </ul>
維持管理されないマンションの増加、スラム化	<ul style="list-style-type: none"> <li>○用途地域等が既存不適格マンションについて、建替にあたり段階的に現行法に適合を認める対策も必要 (①)</li> <li>○100戸～200戸のマンションの建替は、課題 (①)</li> <li>○分譲マンションの実態調査を実施しているが管理不全に陥っているものはない (①)</li> <li>○管理不全に陥らないよう管理組合ネットワークの結成を推奨している (①)</li> <li>○分譲マンションの再生方法として、賃貸化して他の用途としていく方法がある (①)</li> </ul>
限界集落、消滅可能性都市の発生	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自治協議会制度を導入したが、住民の高齢化により、行政の支援がないと活動できなくなっている (③)</li> <li>○県民交流広場により活動を組織化したが、補助金の終了とともに、活動が継続できなくなっている (③)</li> <li>○理念は自らの活動であるが、実態は行政からの働きかけである (③)</li> <li>○若い人がいるところは、資金がなくても継続した活動ができる (③)</li> <li>○高齢化率 50%以上の地域もあるが、村を閉めるという話はない (③)</li> </ul>